

スズメバチに問う

木村 敏美

初夏になると、山小屋のベランダの軒下に「ハチ超激取れ、スズメバチも捕獲」という容器を二つぶら下げる。中に入れる液体は付いていて、色は薄い黄色なので中は見える。初めは半信半疑だったが吊るしてみると驚く程よく捕れる。

山の畑で野菜を作るようになって色んな蜂に出会ったが、彼らは野菜の交配に不可欠だし、殆ど危険性は無い。唯、空飛ぶ猛獣と言われるスズメバチだけは、何かの偶然で刺された時の恐怖は大きく、ホームセンターで見つけた前述の容器を吊るすようになった。夏場ベランダで鈍い羽音がし、耳元を猛スピードで何か飛び去ったかと思うとスズメバチで、激取れ容器に一直線。それからぐるぐる容器の周りを廻って離れず、そのうち中に入ってしまった。

その後も、次から次へと飛んできては、様子を見ながら入ってしまうので意外に早く満杯になる。液が無くなると、日本酒に黒糖を入れた自家製の液でも効果は変わらない。匂いにも敏感だが、視力もしっかりしていて天敵である熊の黒い色には反応し、黒い服は着ない方が良いと言われる程だから、中の様子がよく見え溺れていくのが解る筈なのに何故逃げないのだろうか？

様子を見るに来る蜂は数匹の時もあるのに皆入ってしまう。話し合った結果なのか？

中の様子を見るかなりの時間、その時私はスズメバチに問いたい。助けようとして入るのか、運命共同体なのか、フェロモンの香りに負けただけなのか、迷いは無いのか。ふと、自分の命を投げ出して人を救うなんてとてもできない私が頭をよぎる。

スズメバチは侵入してくる相手に「これ以上近づくな刺す」とあごから音を出して警告する見張り役がいるという。出来る事ならこの見張り役にあの山小屋には危険な罫があるので近づくなと警告して欲しい。蜂そのものは野菜についた虫等食べてくれる益虫でもあると思うとそれが望ましいけれど、今年も夏になると「超激取れ」を吊り下げざるを得ない。